



表紙の写真「東光寺仏殿」

甲府市東光寺三丁目にある臨済宗の寺である。寺記によれば新羅三郎義光が保安2年(1121)に該堂を建立、興國院と号したという。後、南禅道隆によって鎌倉時代に再興された。室町時代には武田氏の保護と尊崇によって栄え、甲府五山の一つ(長禅寺・龍成寺・円光院・法泉寺)として寺格を与えられた。仏殿は天正10年(1582)の織田信長の兵火と昭和20年(1945)の甲府大空襲の戦災を免れて今日に伝えられ、国指定重要文化財となっている。圓簡堂ともいわれ、様式からみて室町時代の禅宗仏殿の代表であって、清白寺(山梨市)、最勝寺(宮沢町)とともに禅宗様の手法をよく伝えている。前行三間、梁間三間、裳階(もこし)付き、入母屋造り、檜葺(ひわだぶき)である。昭和31年(1956)解体修理が完成した。他にいずれも県指定の文化財に、木造薬師如来座像、木造十二神将像、蘭溪道隆書簡、東光寺庭園がある。

[写真と文：浅川 毅]

「MUH」vol.1 1994.7.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢達・矢田道生・杉平靖雄・久保田充一

編集／株式会社ニューメディア甲府

三神弘・三井啓男・新海龍・新谷敬之／五味

剛・清水広子・山川エミ・奥野仁美

印刷／有限会社オズプリンティング

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate(仲間)、Union(結集)、Harmony(調和)の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを背負います。

フォーラム

テーマ 電話 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美 2

対談

山梨21 三井永政氏(山梨日日新聞社長) 4
ホスト 早野潔

陸蒸気の開通と文明開化 MUHの創刊をめくって

生きた情報の交換を 人間らしさを尊ぶ企業

文化の視点からの街づくり

データ

トピックス

PL法活用のススメ 10

企業ウォッチング

株式会社三工社 倉橋英造氏 13

サークル訪問

山梨英和学院中・高等部 マンドリンクラブ 14

インフォメーション

早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運 16

ようこそ歴史

山本勘助の実像 上野晴朗 18

アートへのまなざし

名画に描かれた動物たち1-① 山本育夫 20

トレンド

LOCO POP Bookコーナー 22

リレーエッセイ

甲府の町名盡し 植松光宏 24

近代陸上運送の歴史をさぐる(1) 林陽一郎 25

ユーザー訪問

ランバージャック・ミッキー・クレッシェンド・アップツーデイト 27

お家拝見

田中省三さんご一家(御坂町) 28

ホームあらかると

まちがいのない家づくり 29

おしゃべり サボイ

たべる ブラッセリーエラン 30

PHOTO EYE ぐらしのなかの感動さがし

コラム

某月某日 企業と社会との対話 32



音を見る

江宮隆之

「電話の音、って見えるんだよ」と妙なことを言われた。うたた寝をしていた机の上にあった電話を、ベルが三度目を鳴らそうとした矢先に取った後のことだ。

「今、とても眠りたいね」とも。見えている訳などないのに、と訝るのを見透かしたように電話の主は「目で確かめられない分だけ耳が五感のすべてになっているのよ」。含み笑いをしているな、と思った瞬間「あっ、俺にも電話の音が見えた」と呟いていた。

目の不自由な人が聞くことに神経を集中するのに、電話は似ている。見えないから声で相手の様子や心の裡を探ろうというのだ。もちろん用件を伝えることが電話の第一義だが。

戦国期、武田家に小笠原某という軍配者がいた。軍陣の配置や兵の進退を助言する特で参謀に近い役割を持っていた。彼は中でも、音を見る軍配者であった。甲州流軍学に「五音の占い」があったことはあまり知られていない。五音とは、宮、商、角、徴、羽で示される五気（敵の現出する一種のエネルギー）を見て、強弱の判断を下して戦陣に役立てる軍法だ。

以下は伝承である。小笠原某はある戦で五音の見立てを誤った。音を聞き違えたのだ。戦は負けて終わった。それを恥じた彼は、その夜、おのれの両眼を抉って目を見えなくした。以後、耳だけで五音を判断して、聞き違えることはなく「音見の名人」と呼ばれたという。

電話の音が見えるようになると、回線を通して聞こえる相手の声が、顔の表情、姿勢、心の内側まで伝えてくれる。「寝そべって話すなよ」「机の上に両脚を乗せてるだろう？」。そう言うとき電話の向こうで一瞬絶句し、次に「見えるのか」と誰かが問い返す。

「見えないって事はすべて見えるっていう事だ」。そう答えてすぐに分かる人は少ない。が、少し気を配れば誰にも電話で音は見えるのである。

■1948年増穂町生まれ 山梨日日新聞記者を経て現在、同社、編集局長「経済記」で第十三回歴史文学賞受賞 著書に「漢てゐる指」など 近著の「白田の人」は日本と韓国同時発売で話題を呼ぶ

奇妙な電話

古厩久昭

その電話の主を私は知らなかった。むろん覚えのある声でもなかった。その声は次第に涙声に変わってくるのだ。「ヘンな電話だ」。それでも私は電話をきらないでいた。電話の主は、私の作品のことを知っていた。私はある同人雑誌にエッセイを書いていたのだ。それをどこかで読んでいたらしく、私にその感想を述べるのである。初めのうちは「ナルホド」と感心もして聞いていたのだが、そのうちに涙声も重症となり、

「憎しみも優しさの中に宿るんだわ」「かなしみは、あたしだけでいいの」などと何やら勝手に支離滅裂なことをいいだす始末。しまいには、

「生きていくって愛なのよね」ときた。もはや潮どきと思い、私は電話を切ろうとした。すると、それを察知してか、電話の主は急に態度を変え、今度はアナウンサーのようなしっかりした口調で、「実はあたし、フルヤさんの作品で一つだけ納得できないところがあるの」などと挑戦してきた。もちろん受けて立つわけだから電話を切るのは止めて「納得できない箇所はどこでしょうか」と問うと、「そんなことはもういいの」、まるで夕立が俄かに降ってきたように、またもや涙声に変わってしまうのである。

さて、三十分は経過したのだろうか。「一体いつまで話しているのよ。いい加減にしてください。いつも長電話を叱っているのはあなたでしょ。知らない人だったら、なぜ切ってしまうわないの」。最初に電話をとってくれたウチの人の雷が、ついに落ちたのである。

後にわかったことだが、その電話の主は、同人雑誌の名簿を見て電話をかけ、涙ながらに話をしたいという奇特な人として知られているというのである。一種の電話魔には相違ないが、こんなふうなカタチで作品評等をしていただけたのも、電話ならではのことで妙な感じをしてしまったものである。

■1943年岡坂町生まれ 詩集に「料理考」「椅子の腹」「落日探集」「人名詩集」エッセイ集に「日々のおこぼれ、言葉の微熱」「三色調り合わせ」小説集に「海辺・編者男」1986年 読者賞受賞 日本現代詩人协会会员

電話なるもの

岩崎正吾

電話が鳴っている。初めは夢の出来事かと思う。音がしだいに高くなり、夢が現と溶け合う。これは現実だと知る瞬間が来て、わたしは罵声を上げ、ベッドから転がり出る。

かくも電話は暴力的である。まだ眠っているのに、安眠を妨げ寝床から引きずり出す。食事の最中でも仕事に集中している時でも、風呂に入っているのが、本を読んでいるのが、こちらの事情はおかまいなしに金切り声で呼びつける。

しかも、当方には用件を選べない。眠気でぼんやりしているのに、ゴルフの会員権を買えなどと言われると相手を殺したくなる。編集者の原稿の催促や、金が無いのに支払いの督促など受けた時は、ああ、こんな電話なら出なければよかったと後悔することもある。電話の用件というのは、大半、伝えられなくてもいっこうかまわないものである。

だから、わたしは電話が嫌いである。あの金属的な呼び出し音には、生理的な嫌悪感を覚える。いっそ電話など無い場所に行きたいということもある。時折、料金の支払いをおこたり電話を止められることもあるが、そんな時は妙にはっとした気持ちになる。

それでいて、困ったことに、わたしは電話が無いと生きていけない。わたしのよう一人ですべて仕事をしているものは、電話が唯一の外との通信手段なのである。仕事の注文、打合せはすべて電話だから、無ければすぐに干上がる。高給の両親も心配だし、都会で一人で生活している息子のことも気になる。

電話が近くにあり、何事かあればすぐに知らせが来るだろうという信頼があるから、わたしは密室で仕事ができるのである。つまり、電話を嫌悪しながら、電話なくして生きられない。何たる矛盾であることかと思うが、わたしたちを取り巻く文明の利器なるものはみな同じようなものではないだろうか。

■1944年甲府生まれ 地方出版社「山梨ふるさと文庫」を設立「横溝正史殺人事件あるいは悪魔の子守歌」でミステリー作家としてデビュー「闇かがやく奥へ」で角川ミステリー・コンペ グランプリ受賞 近作「異説本能寺・信長殺すべし」(講談社)

もしもなかったら

佐藤真佐美

ぼくが札幌の農業高校を卒業して知床の開拓地へ帰ると、新進技師が来たかと熱烈歓迎を受けた。電話もない陸の孤島で、家畜が病んでも獣医が来るあてもなく、村人が期待したのもゆえ無しとしない。技師は驚くべき新進ぶりを発揮して、農家の親父どもをうならせた。肛門に挿入すべき牛の体温計を前脚の付け根にはさみ、人工受精の直腸検査で子宮と卵巣をまちがえ、豚の逆子摘出に草刈り鎌で腹部切開親子ともに殺すなどなど。ちょうど農家の長男の嫁不足が深刻になりかけた頃で、百姓に見切りをつけたほうが身のためだと決心しかけたとき、S子という少女と縁を吸い合う仲になり気を取り直した。

冬になると、造材山の渡世人（鋸一丁で渡り歩きこり）を取り仕切る田舎ヤクザの親分に「おめえは学問あるんだから算盤達者だべ」と飯場の帳場にスカウトされた。トラックに布団を積み山奥の飯場へ向かう途中、営林署の苗木を育てる苗圃の前にさしかかった。このあたりで唯一電話のあるところで、緊急の場合は皆利用する。若い女性がたくさん働いている。じつはS子もいた。飯場へ入れば二ヶ月は会えない。降りて連絡していこうと思ったとき、トラックを運転していた青年が、おだやかならざることを口走った。「帳場さんも車の運転覚えなさいよ。いいことあるよ。女の子が帰る頃見計らい、電話を借りるふりして苗圃に寄るんだ。Y子やS子なんて、乗せてのせてってせがむのさ。山奥に運めばこっちのもの。何回ヤツカ」

まだこの地域ではトラックが珍しく、誰でも乗りたがった。ぼくは降りるのをやめた。刺青者のたむろする飯場でかれらの伐採した木材の体積を計算し資金に換算する。算盤は何度やっても合わず、親分にどなられ、刺青者にはすごまれ、ほうほうの体で故郷を出奔したのは、翌年の春だった。あのとき苗圃にもし電話がなかったら、ぼくはいまごろ、知床で百姓をしていたかもしれない。

■1939年北海道生まれ(祖父は高根町の人) 玉川大学卒 1973年少年少女小説「マシガの世界」で北川千代賞 日本児童文学者協会 日本火山調査学会々員 山梨学院短期大学非常勤講師 山梨県文化財(洞窟)保護指導委員 ぼへみ庵探検隊主宰

文化の視点からの地域づくり 共通意識と独自の発想で 住む人を主人公にしたふるさとの形成を

ゲスト

三井 永政氏

みつい ながまさ
山梨日日新聞社社長

ホスト

早野 潔

はやの きよし
早野組社長

陸蒸気の開通と文明開化 早野組の歴史と時代の変遷

三井 国鉄中央本線が開通したのは明治36年6月のことで、ちょうど90年が経ちました。山梨は風光明媚な山岳地帯ですが、それだけにまた、工事は多難なものでした。開通までに6年あまりを要したといえます。

この鉄道の開通によって、山梨は

本格的な文明開化を迎えるわけですが、早野組は、この歴史的な事業に参加していますね。偉業といっているでしょう。

早野 まだ甲府駅のホームの表記が「かふふ」とかかれていた時代のことですね。中央本線の工事の困難さは、山間部80キロに42ヵ所というトンネルの数が物語ります。ことに

いトンネルでした。

三井 甲府からの所要時間は6時間だったといえます。それまでは、新宿まで3、4日かかる旅でした。また、笹子峠を越える難儀もなくなりました。当時の山梨日日新聞を開いてみると、鉄道の開通に寄せる市民の喜びようが、実感をもって伝わってきます。

早野 大変な見物客の数で、花火も打ち上げられ、お祭りのようだったと聞いています。

三井 ええ、人出は20万人を超えたといえます。駅を見下ろす愛宕山や舞鶴城址には桟敷が設けられて、50本もの花火が打ち上げられ、夜は提灯行列が続いたそうです。

早野 当時はまだ、陸蒸気（おかじょうき）と呼ばれていましたね。黒煙を吐きながらホームに入ってくる列車の姿は、勇ましく、また頼もしかったでしょうね。

三井 鉄道の開通によって、山梨の文化や産業は恩恵を受け、県民生活は急速にスピードアップしていききました。今、スーパーあずきは、新宿・甲府間を時速130キロ、1時間20分で走行します。鉄道開通時の所要

時間と比較することで、この90年という時代の進展、変化を計ることができますね。

さらに山梨は、昭和33年の新笹子トンネルの開通、昭和57年の中央自動車道の全通によって、多大な可能性をもたらされました。これらの大事業にも、やはり早野組は貢献していますよね。

たとえば、中央自動車道は開通後の3年間、山梨の工業製品の出荷額を全国一に引き上げました。県民所得も、昭和57年に全国27位だったのが、昭和62年には、12位に伸びたことが県のデータにあります。

ご苦労の多い仕事とは思いますが、こうした事業に携わった人々に敬意をあらわしたいですね。

早野 早野組の創業は明治20年のことです。株式会社としてはちょうど今年が40周年にあたります。先人の業績をたどってみるということは、創立時の理念に立ち返るということなので、そこから将来への指針も、展望も見えてくる気がいたします。

そのひとつに、文化の視点からの企業づくりがあり、さらには、地域社会への貢献、ということがあります。



三井永政氏

三井 その主旨から発想されたのが、このほど創刊の運びとなった「MUH（むー）」ということになるわけですね。

MUHの創刊をめぐる 共感のパワーで社会貢献

早野 誌名の「MUH」というのは、早野組の社訓である「和」を託したネーミングで、Mate（仲間）、Union（結束）、Harmony（調和）の頭文字を組み合わせた造語です。年に4回発行し、早野組と早野グループ、また、関連企業の方々とのコミュニケーションを確かなものにしていきたいと考えています。

さらに、ご家族のみなさんにも読んでいただきたいですね。父の仕事、夫の仕事、恋人の仕事をよく知ってもらいたい。その意味では、ご家族もグループの一員です。

三井 見えない時代、といわれていますよね。自分の生き方や携わっている仕事、どのように人や企業、また、社会と接点をもち、役立っているのかという実感がもちにくいという傾向がありますからね。さらに、時代の先行きがイメージできないという困難さもあります。

早野 そこにコミュニケーションの重要性があります。相互理解や、共通テーマをもちうる関係づくりを



早野 潔

広げていかなければなりません。人間は、たんに、社会のシステムの一単位であってはなりませんから。人間らしさへの回帰とでもいいますが、生きる喜びや充足が、明日へ向かっていく原動力であるはずですよ。

三井 まさに現代は情報化社会ですが、海外や国内のことはテレビなどをとおして瞬時にわかっても、身近な情報は少ないというのが現状です。また、情報は専門化していった、共通のものになりにくいということもあります。

早野 つまり、自分の仕事や生活レベルでの情報が不足しています。そこに断絶感や、孤立感が生じてきます。いま、求められているのは、自分が生きる現場であるところの、いきいきした情報ですね。

生きた情報の交換を断絶の時代を超えて

三井 情報化社会が、かえって人と人を離れさせてしまうという現象を起こしてしまうということがありますからね。その意味で「MUH」の発刊は意義深いものがあります。

もうひとつ、地域文化の創造や、社

会への貢献ということテーマにしていることも評価したいですね。働くものにとって、自分の仕事と社会の接点、参加のあり方、貢献度などは、生きがいや誇りに通じます。

しかし、社会への貢献は一人一人では大きな力にはなりません。一人一人が企業をとおして行っていくとするとところにパワーが生まれます。そこに着眼している早野組は、これからの企業のあり方、企業体質を考えるうえで先進的だと思います。

早野 地域社会とのつながりがあ

ってこそ、はじめて企業は存在するのだという認識が大事でしょう。私たちの業界でも、これまで、福祉関係への寄付などお金による社会貢献、物を貸与する社会貢献、公共施設の整備など、汗による社会貢献といったことを行ってきました。地味ではあっても、繰り返しの運動によって実現していこうというのがみんなの目標です。

三井 地方の時代といわれます。地域の価値や、暮らし心地の充実が求められてもいますが、私たちのま

ち、私たちの生き方、という自覚から、地域文化は芽吹いていきます。社会貢献への必然性もうまれていきます。

自分たちの住む地域や、住む人々を主人公にしたふるさとづくり、そう言ってもいいでしょう。そしてこのことは、人間の集団である、企業の内部からはじまっていくのが望ましいと思います。

人間らしさを尊ぶ企業 社会人としてもベターに

三井 早野組は、その歴史を振り返ってみても、もともと文化的な体質をもった企業だと受け止めてきました。先代、つまり社長のお父様は、高名な俳人でした。号を四方とおっしゃいますね。評価の高い文化人で、ことに植物をよく観察され、繊細な作品を作られています。

早野 私がお話しするのも恥ずかしいことですが、趣味の広い父でした。そして冷静で、客観的な判断をする人でした。

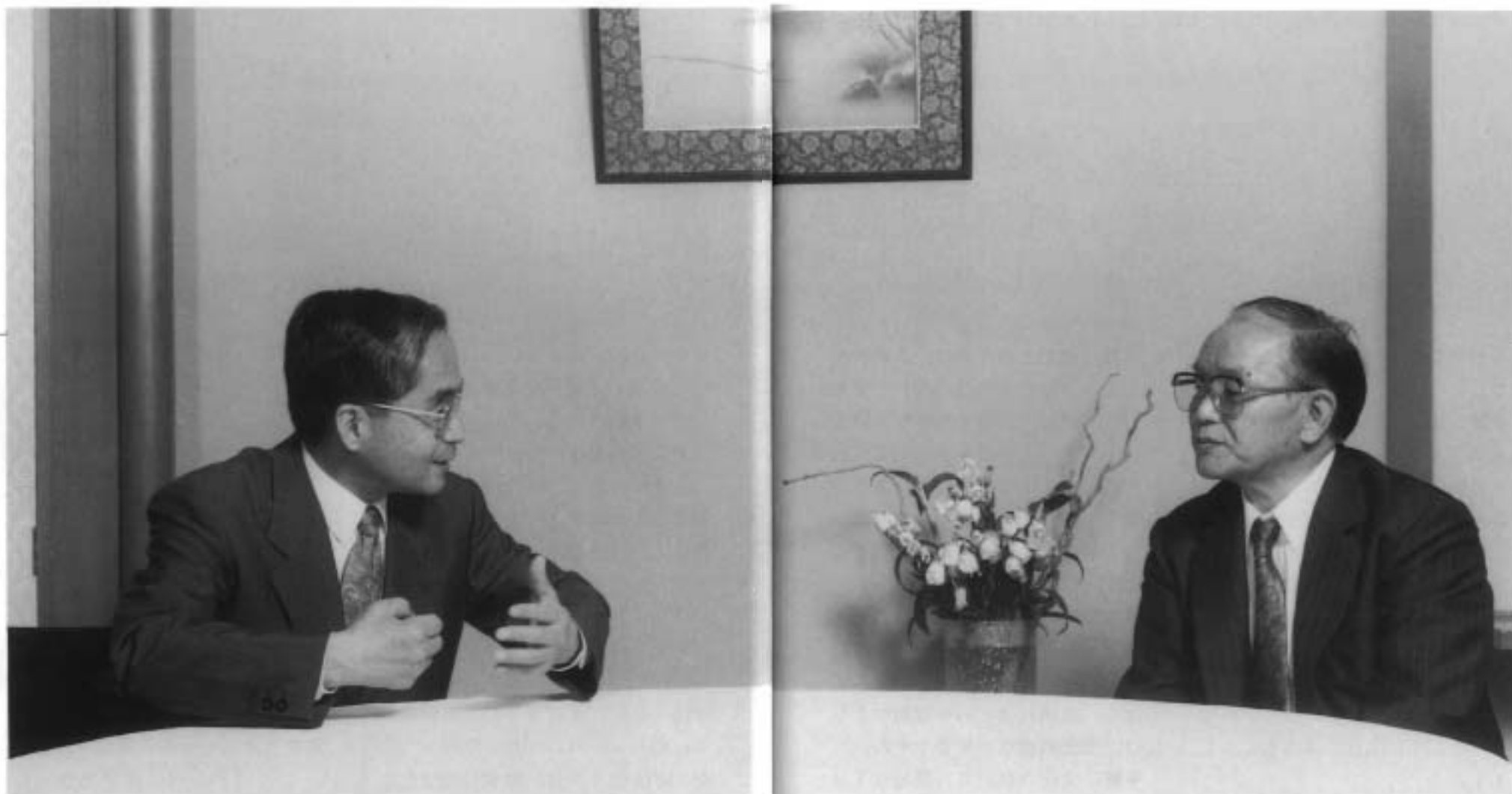
バラやサツキを栽培していました

が、堆肥づくりから、丹念に一人でするんです。小鳥もメジロなど飼っていましたが、これも徹底していました。餌づくりから世話をするんです。釣りも好きでしたね。朝4時頃から出かけていました。よく歩く人、という印象ものこっています。さまざまな分野の方々との交流もあり、話題も豊富でしたね。

三井 そうした観察眼や、俳句を作られるなどの創造力をもって、人や社会と交流し、山梨の文化を創り、育て、また一方で企業を伸ばし、事業を推進してきたわけですよ。いや、この二つのことは、じつは同じだったわけですよ。つまり、普段の生活のなかに文化があるわけですよ。あえていえば、人間味、優雅さ、といっているでしょう。

かつては、そうした企業人、経済人が多くいた時代がありました。たとえば、江戸の文化は、そうして花開いたわけですよ。甲府のまちの文化もしかりで、そうした度量のある人々によって形成されてきたという歴史があります。

それが、経済性や効率だけを問う時代になってしまいました。この



流れが、利益優先で、人間性を後退させてしまいました。そして今また、当然のことのように、社会と企業のあり方が問い直され、企業の文化的視点の大切さが注目されるようになってきているのだと思います。期待もふくらんでいます。

文化の視点からの街づくり 地方文化形成の手法とは

早野 これからの地域文化のあり方というのには、どんな手法があるのでしょうか。

三井 ひとつには、国が主導しての方法というのがあります。フランスなどがそうですね。王政時代からの伝統というものがある、文化の創造は政治の義務である、というところがあります。世界に誇る名だたる美術館を例にとってもそのことはわかります。

もうひとつは、ドイツのやり方でしょうか。地方独特の文化のあり方に価値基準を置いています。そしてその地方、その地方で、個性ある文化の創造ということを展開しています。

このドイツ方式で、文化を創り、育てるということになれば、行政も、企

業もひとつになり、市民がこぞって参加しなければ実りはありません。

早野 山梨における文化の視点での地域づくりは、県立美術館のもたらした成果のうえにたち、県下各地で計画もされ、また、実現していますね。

三井 早野組が参画した文化施設という、青春白樺美術館はもとより、春仙美術館、清里の北沢美術館、河口湖美術館もそうですね。これらは、早野組の作品、といっているんですね。そして、文化の拠点となっています。

春仙美術館を例に挙げるなら、この秋に浮世絵の写楽展が開催されます。山梨にしながら、日本はおろか、世界的な文化の恩恵に浴することができるとは素晴らしいですね。

早野 現在建設中で、間もなくオープンする文化施設に、河口湖の野外音楽堂があります。これは河口湖畔の恵まれた景観のなかにあり、さらに空に見える音楽堂という、創意に満ちたものなんです。公共施設、民間施設を問わず、独自の環境や文化の要素、また、活用を考えてプランされていますね。

三井 建設というのは、人間が生活を営み、生きる空間づくりですからね。人間は、建物を設計し、ひとつの空間をつくりませんが、つくられた空間は、こんどは人間の生き方や行動を規定していきます。さらにひとつの建物は、他の建物と関係を持ち、道路や緑地へと連続していったって、大きな街という空間をつくっていくわけです。したがって、建物や道路、公園、橋などの建設、大きくとらえるなら、地域社会という空間づくりには、文化の視点が重要ですね。

早野 文化の視点での環境づくりは、これからさらに進んでいくことでしょうか。そして、この街づくり、地域づくりの前提となるのは、やはり人と人の共通感覚や、共通意識づくりでしょう。そして一人一人の熱意と参加です。

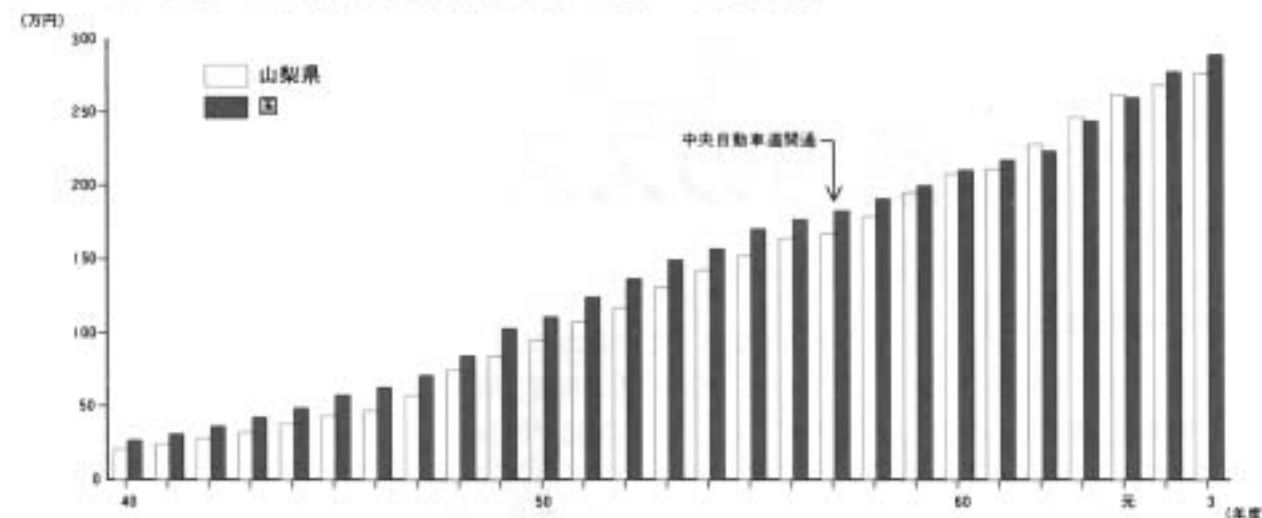
三井 ふたたび、「MUH」発刊の主旨に戻ったようですね。「MUH」のこれからの意欲的な展開に、また、早野グループのコミュニケーション活動、情報発信に注目し、期待を寄せたいと思います。

〔構成：三神弘〕

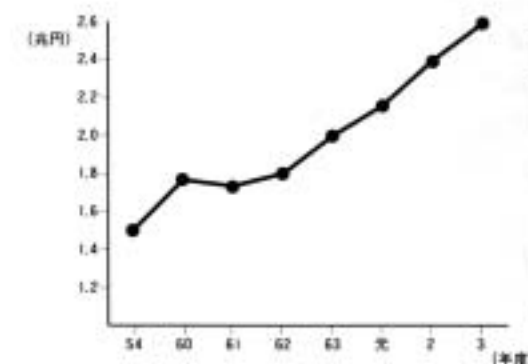
データ① 中央自動車道の開設と一人当たりの県民所得の推移

わが国の経済が臨海型・重厚長大産業を中心とした経済成長が続いた40年代、内陸にある山梨は全国30位代半ばまで後退したが、中央自動車道の整備が進み、50年代

は高速交通網時代とともに20位に復帰した。さらに60年度には10位まで躍進した。その後の後退は、急激な円高の影響である。

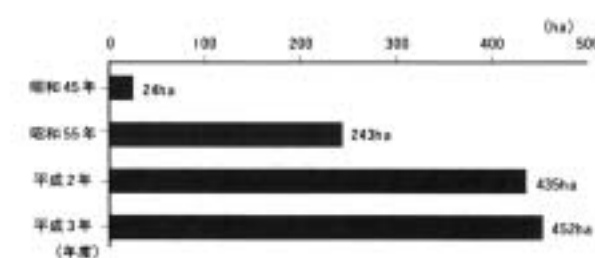


データ② 山梨県の製造品の出荷額

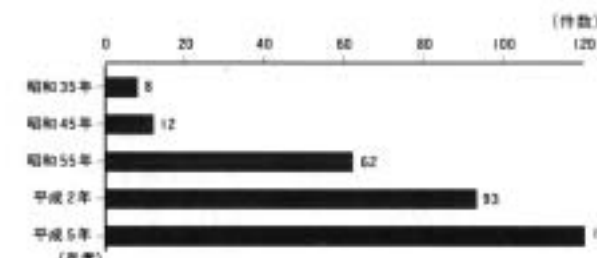


年	製造品出荷額(百万円)	順位	対前年伸び率	伸び率順位
60	1,764,493	33	18.2	1
61	1,731,801	34	-1.9	19
62	1,799,914	32	3.9	5
63	1,997,447	31	11.0	7
元	2,156,327	33	8.0	31
2	2,392,468	33	11.0	6
3	2,590,543	32	7.4	16

データ③ 山梨県の都市公園の推移



データ④ 山梨県の老人福祉施設の推移



来年度にも施行されるPL法（製造物責任法）
生産大国ニッポンの消費者の切り札となるか

PL法 活用のススメ

※PLはProduct Liabilityの略

便利さの裏で…PL法とは？

日常生活の中で何気なく飲んでいる薬。カゼ薬、胃腸薬、便秘薬…etc。ライフスタイルの中に入り込んでいる生活用品や電気製品。テレビ、オーディオ、洗濯機…など。昭和30年代には3種の神器と言われた自動車や冷蔵庫、クーラー（今はエアコン）。スイッチひとつで便利な生活を享受できるのは、これらがもたらす過剰なまでの性能や機能による。

さて、イントロはこれくらいにして、まずはアメリカでのてんかん訴訟。ファミコンのトップメーカー任天堂がハード本体に、本機の使用によりてんかん等疾病を誘発する恐れがあります云々と明示しなかったばかりに、訴訟大国アメリカで現在窮地に立っている。便利さや快適さをもたらすと思っていた商品がある日突然牙を剥く…。

ここまでも閑話。

忍耐強い読者諸兄には、「お前は何を言いたいんだ」とそろそろ堪忍袋の緒が切れる頃かもしれない。

それでは…。

PL法をご存じか。アメリカをはじ

めヨーロッパ各国ではすでに日常生活の中に入り込んでいるこの法律制度。20年来の審議の末、生産、消費大国日本でようやく法制化が図られることになった。

和名は製造物責任法案。簡単に説明すると、商品を生産するメーカー側の過失によって、欠陥製品（実はこの証明が難しいのだが）による事故で被害を受けた消費者を救済する制度の事を言う。例えば、冒頭で挙げたテレビ、洗濯機などの家電製品を、使用説明書通りに使ったにもかかわらず、製品自体の欠陥によって出火、爆発などが発生し、それによって人体や財産に被害をこうむった場合、従来の民法の規定にある消費者側に「過失」の立証を求めた考え方を転換し、「欠陥」の存在と事故との因果関係を立証すれば損害賠償できるとするもの（ちょっと難しいか）。

ここで言う製造物の定義というのが、また難解でめんどくさい。「製造または加工された動産」というのがそれ。ざっくりばらんに言ってしまうと薬や車、日用品、家電製品など日常生活の中でゴロゴロしているもの

を指す。消費者の申告等の手続きにより—

- ①製造物の特性に問題はなかったか
- ②普通の方法で使った
- ③出荷したのはいつか

—といった項目をクリアできれば、森永ヒ素ミルク事件、カネミ油症事件といった、長期に及ぶPL訴訟にまで発展することなく、損害賠償の請求ができることがポイント。現在、この申告手続きについて「通産省に苦情処理機関を設置するとか、国民生活センターを通じてとか、消費生活センターが仲介するなどの議論が有り、整備を進めている段階でいまのところは流動的」（山梨県消費生活センター今村所長）とのことだ。

さて、突然のように振って沸いたPL法。「週れば、20年来の消費者運動の賜物」（前出、今村氏）。なのだそう。ただ、急速な法制化へのきっかけとなったのが、大阪でテレビが出火し、オフィスを全焼。会社役員加地千佐雄氏の次女が死亡するという状況にかかわらず、火災を引き起こしたとして、製造元のパナソニックを過失責任で告訴。大阪高裁にお

いて原告側が勝訴するという事態を受けてのこと。

県内でのPL火災の件数は

翻って山梨県。甲府消防署に、家電製品などの通常使用下での、ボヤや出火の件数をと聞いたところ、ちょっと古い資料で恐縮だが、と貰ったのが自治省消防庁防災課刊行の「平成3年火災年報」という、いかめしいタイトルの冊子。

「？」と思いながらもバラバラめくってみると、昨年、県内でPL法対象と思われる火災は3件。内訳はボイラー出火が1件、コタツ出火が2件となっている。前者の原因は判然としていないが、後者の内の1件は通常使用下で、配線関係のトラブルが原因とのこと。通常使用下でのPL法対象となりそうな火災トラブルの上位は、電化製品を例にとると、絶縁劣化、輻射、伝導過熱など。ちなみに本県の火災数は年間392件。被害総額14億円弱で死者14名、負傷者も44名を数える（火災年報調べ）。

PL法の対象は、前述の火災のみならず、血液製剤による被害、車の欠陥など対象範囲は多岐に渡る。いず



写真は本文内容とは関係ありません

れにしても、申告手続きの簡便化が損害賠償による補償に拍車をかけることが予想されるPL法。「まだまだ流動的で消費者保護の規定や欠陥の定義が曖昧」（前出今村氏）とはいうものの、過度の生産重視の日本にお

ける消費者運動の先鞭をつけることになるか。政治のバタバタを尻目に今夏、すったもんだの国会をすんなり通過すれば施行は来年（これが一番怪しい）。

[文：新谷敏之]

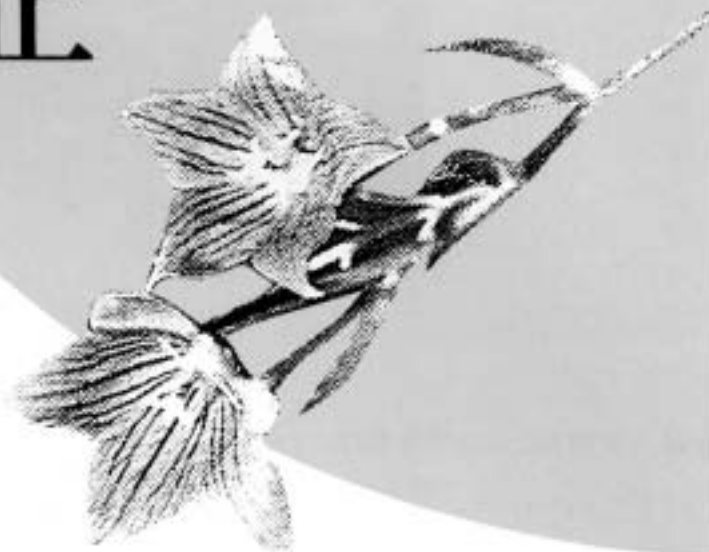
製造物責任（PL）法案の要旨

- 【目的】
第一条 製造物の欠陥で被害が生じた際の製造業者の損害賠償の責任について定める。被害者の保護をはかり、国民生活の安定向上と国民経済の健全な発展に役立てる。
- 【定義】
第二条 「欠陥」とは、製品の特性や通常考えられる使用法、製造業者が製品を出荷した時期などを考慮した上で、製造物が通常持つべきであった場合、企業は賠償責任を負う。
- 【製造物責任】
第三条 製造業者は出荷した製品の欠陥が原因で、他人の生命、身体や財産を侵害した場合、生じた損害に賠償責任を負う。
- 【期間の制限】
第五条 製造業者が被害者に対して損害賠償責任を負うのは、製品を出荷した時から十年間とする。また被害者が、製品を出荷した企業を知ったにもかかわらず、その後三年間に賠償請求しないと、企業は賠償責任を免れる。
- 【民法の適用】
第六条 略



あらゆる世界に美学はある。
日本の文化、伝統に培われた建築物、
その端正な美しさに、私たちは
魅かれてやまない。

端正



旅館きこり別館「瑞穂」

発注者 株式会社 旅館きこり
工事場所 東八代郡石和町中島372-1
工期 平成5年4月18日～平成6年4月25日
総務責任者 池川 孝
工事担当者 前快政人 上田圭一 小月昌広

THE 40TH ANNIVERSARY
HAYANO CORPORATION

株式会社 早野組

本社 〒400 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 0552-35-1111代 FAX 0552-35-1109
東京支店 〒160 東京都新宿区西新宿四丁目39-26
TEL 03-3376-2897 FAX 03-3375-7124

中部支店 長野県飯田市南中平2621-1 TEL (0265)22-3969 FAX 52-2171
静岡営業所 静岡県静岡市大島2丁目4-7 TEL (054)246-2503 FAX 246-2503
岐阜営業所 岐阜県土岐市泉橋の木町1丁目32 TEL (0572)55-2834 FAX 55-0817
和歌山営業所 和歌山県和歌山市赤松497-603 TEL (0265)83-0360 FAX 81-5468
多摩営業所 東京都八王子市横山町11-4 加藤ビル3F TEL (0426)45-2375 FAX 45-2375

企業ウォッチング

株式会社 三工社



常務取締役・甲府工場長
倉橋 英造 氏

「山梨は排他的なイメージがあったけど、
実はとても信頼のできる、工業化に熱心な所だね」

「三工社なんて、一般の人達は聞いたことないんじゃないかなー」。倉橋英造氏は言う。事務所内及び氏自ら案内してくれた工場内の至るところに社一品質の確保、納期の厳守、価格の低廉—が謳ってある。では実際、この普段耳慣れない会社が私達の日常生活にどれだけ密接な繋がりがあるのか、まずは会社紹介といきましょう。

さて、朝の通勤ラッシュ。昨夜のはしごが祟って、「遅刻だー!」。次々と信号をクリアし、車を走らせて行くと「カンカンカン…」踏切で待つこと約3分。やっと電車が通過、と思いきや突然目の前で停止。事態は最悪。カタブツ上司の雷が…ピカッ! 電光石火。そうだ高速だ!…が、甲府南出口の看板が見えて来た時には既に9時を回っていた。恐る恐る会社のドアを開けると上司の姿がない。踏切を渡る際エンストをおこしたとの事。ラッキー! え?じゃ今朝電車を停めたのは…!?

朝から最悪のスタートを切ったこの人物。遅刻はしたものの安全に出社を果たします。あれ?会社紹介じゃないの?そうです。彼(又は彼女)が見たもの=信号、踏切、停車した電車(ブレーキ・自動列車停止装置)、高速の看板—これら全てを開発・製造しているのが「株式会社三工社」。常に私達の安全を考え、見守ってくれているのです。

●三工社データ●

大正15年の創立以来、60年余に亘り陸上交通全般の安全と社会環境保全に貢献。現在、市場占有率は70~80%と圧倒的なシェアを誇る。その他にも通信機器や

ガス検知警報装置と広分野に進出し着実に業績を上げている。周辺の高層住宅化を機に平成2年4月、新宿副都心にあった工場を甲府に移転。そしてその工場長の座を、入社以来25年間、鉄道信号の営業だけをやってきた人物に与えたのです。

●甲府工場長・倉橋英造氏●

4年前、長年の営業マンから甲府工場長へ転出。10年間努めた前の会社を退職後、知人の紹介で三工社に入社する。「遊んで給料をくれるって言うんで入ったら、全然違ったよ」。現在は工場の最高責任者として、作業場を回り、直に人や製品に触ることが最も大切だと言う。これぞ真正正銘の「スキンシップ」。「山梨は排他的なイメージがあったけど、実はとても信頼のできる、工業化に熱心な所だね」と語る。

そんな倉橋氏。仕事一筋か?と思いきや、「私生活も一生懸命するんですよ」と冗談混じりで語る。ゴルフ、観劇、音楽鑑賞…と、これまた聞いているだけで楽しい(本人のプライバシーを守るため、全部書けないのが惜しいけれど…笑)。その数多い「私生活の過ごし方」の中で一番凝っているのが映画。分厚いリストを頂き見てみると、映画の題名がズラー。「シンドラーのリスト」を思わせる、まさに「クラハシのリスト」。邦・洋画、今昔のコレクションは約250本にものばる。

「僕はミーハーなんですすよ」。とにかく話題豊富な倉橋氏。いつか機会があったら個人的にお話を伺ってみたいらうでしょう。その気さくな人柄が、すぐ会話を弾ませてくれること請け合いです。この人あって、三工社あり。まさに会社の顔です。[取材:真壁仁美]

山梨英和学院 中・高等部

「マンドリンクラブ」

マンドリンの美しい音色に託す
明るい笑顔が魅力の英和の乙女たち



多くの人との出会いを大切に●●●

印象的な白い建物、清潔な校舎、さわやかな笑顔が明るく挨拶してくる。彼女たちの豊かな感性を感じる。音楽堂に近づくにつれマンドリンの美しい音色が響きわたる。音符を見つめる少女のまなざしは真剣そのもの、どの少女からもマンドリンに対する熱意が伝わってくる。

山梨英和学院中・高等部は、山梨県内でもめずらしいマンドリン部の活動を熱心に行っている。マンドリン部は、組織的には山梨器楽管弦楽部門に属し、この部門を通じ



県内ではめずらしいマンドリンクラブだ

てマンドリンを他校の生徒にも広く指導し、人との出会いを大切にしながら、山梨に大きなマンドリンの輪を広げることが目的としている。もちろん、技術の向上も大切な課題。関東地方では、広く普及しているマンドリンだが山梨県ではあまり活発な活動は見られない。したがって、練習も学校内だけでなく東京の学校（マンドリン部）との練習交流も盛んに行い友情の輪も広げている。

マンドリン部誕生秘話●●●

山梨英和マンドリン部の歴史は、1952年に英和の講堂で開催された「比留間絹子マンドリン・アンサンブル」の演奏会に始まる。

当時、数々の音楽会のなかで異色なマンドリンの演奏会は、その上品な音色で多くの人々に深い感動を与えた。この演奏会が隠れたきっかけとなり、古屋千枝子教諭が英和学院に赴任してまもなく当時のPTA役員の秋山亮氏からクラブ設立を相談され、指導・楽器の援助も約束するからと創設を持ちかけられた。そして、この時のPTAの中から県会議員だった秋山亮氏、天野久氏、有泉亨氏、萩原徳憲氏、小松安則氏、成沢広次氏、長谷部正順氏、原忠三氏、八巻恭介氏の9名がそれぞれに個人負担をし、指導者に当時のアンサンブルの一員であった飯島國男氏（後に英和PTA会長）を推薦。

こうして、1964年（昭和41）人々の熱い思い入れと音楽への情熱を胸に抱いてマンドリン部は創設。3年後の1966年には、第1回目の発表演奏会も飯島先生の熱心な指導のもと、大成功のうちに開くことができた。演奏会も『マンドリン・コンサート』として今年で27回目、時代とともに山梨英和学院の顔として定着してきた。現在も英和学院に在職中の古屋千枝子教諭は、当時のことをなつかしように思い出し、遠い昔を回想するその瞳はやさしさに満ちていた。

熱い指導に支えられ、技術も向上●●●

今も、マンドリン部は創設当時の積極的な活動をつづけている。指導者は交替し、部員たちが純真な心の音色



パイプオルガンを背に音楽堂で練習する生徒たち

を奏でながらこの学舎を築立っても、確かな伝統がマンドリン部を支えている。

現在の部員数は59名、受験のため部活動を休止している高校3年生をいれると70名という大所帯。指導者一名、顧問も三名ほどついて部の運営をまかなっている。創設当時からの理解者だった、飯島國男氏は、亡くなるまで演奏の指導だけでなく自らも曲を編曲し、次から次へと新しい曲を彼女たちのために用意してくれた。その熱心な指導は生徒たちの心を強くひきつけ、マンドリンへの思いをよりいっそう確かなものとした。氏が亡くなったからの指導は、同じマンドリンアンサンブルの一員でありマンドリニストの片岡道子先生にお願いし、より一層の技術と精神の向上を目指した。片岡先生は、マンドリンの第一人者として独自の演奏に取り組み、その演奏姿勢は生徒たちに強い影響を与えている。

いつまでも語り継がれる伝統の重み●●●

毎年、学内で行われる合宿は生徒たちが心ゆくまで練習できる唯一の機会。生徒自身が各自のプログラムに従い、合同練習から個人練習までみっちり演奏できる。彼女たちは、『マンドリンコンサート』での演奏を目的としてこの合宿で短期集中して精神的なつながりを深める。常に生徒たちが活動の中心となって進めるクラブ活動

は、生徒たちなりの苦労もあるようだ。ポスター作成やプログラムの作成。広告の依頼までが彼女たちの仕事。コンサートでの曲の選局や構成など、練習との二人三脚ですべてをこなして行かなければならない。彼女たちの、マンドリンへの情熱が感じられる。



片岡道子先生の音楽魂は生徒に強い影響を与えている

若いエネルギーがひとつのことを成し遂げるパワーは、計り知れないものがある。彼女たちのくったくのない笑顔の影には、どんな練習にも負けない結束がある。ひとりひとりの情熱はこれからも、山梨英和学院の伝統となり新しい時代の中でも、マンドリンの音色は音楽堂のステージに響きわたるだろう。心静かに、そして上品にやさしく、深い感動を呼んで……。[文：清水広子]

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

清里の森に保養所が完成

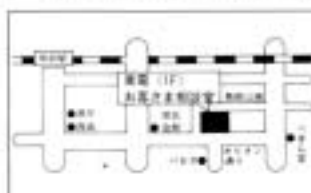
早野グループの保養所「MUH HEIM」(むーはいむ)が、北巨摩郡高根町清里の森1-6-11に完成しました。早野グループ各社の役員・社員(臨時社員、定年退職社員を含む)とその家族なら誰でも利用できます。社員の紹介などで委員会が認めた人でも構いません。役員・社員とその家族は1泊につき1名1,000円、それ以外は1名2,000円です。予約は利用日の1週間前までに、申込書を各社運営委員会へ提出して下さい。



完成した「MUH HEIM」

早野組社員による絵の展覧会のお知らせ

8月15日(月)～8月21日(日)の10時～17時(最終日は16時まで)に、早野組社員出展の、絵の展覧会を開催します。場所は東京電力山梨支店お客さま相談室TEPCO ミニギャラリー(甲府市丸の内1-10-7 Tel0552-33-1181)。出展者は、中島堅(理事)、渡辺匠(建築本部)、広瀬善博(労務安全部)です。土曜日・日曜日にも上記の時間通りに開催します。



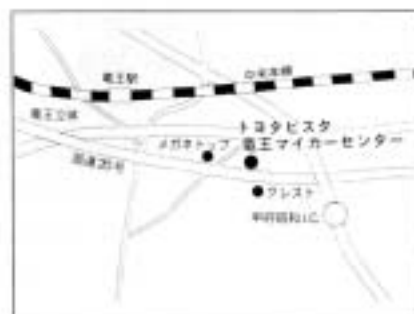
株早野組
甲府市東光寺1-4-10 Tel0552-35-1111

トヨタのお店ならではの中古車選びを

新車でもそうですが、中古車では特にアフターサービスやアフターメンテナンスは欠かせません。中古車を買ったが壊れていたところがあったとか、調子が悪いなどという話をよく耳にします。こうしたトラブルを防ぐためにも、信頼あるお店を選ぶことが賢い中古車選びの第一条件といえます。

中古車を購入しようと考えているなら、トヨタビスタ山梨電王マイカーセンターの私たちにお任せ下さい。トヨタのお店ならではの安心と信頼を、納得の価格で提供させていただいています。全国のトヨタサービス工場で保証修理が受けられる「ロングラン保証」(1年もしくは2万キロ走行)を中心に、納得のプライスでお買い得な車を取り揃えております。また、トヨタ車に限らず他社メーカーの車も扱っております。展示してある車の中に気に入ったものがない場合でも、希望に添ったものをお探しいたします。

安心と信頼を皆様のお車の標準装備にと、努力いたしておりますので、ぜひ一度ご来店下さい。営業所員一同心よりお待ちしております。



トヨタビスタ山梨電王マイカーセンター
中巨摩郡電王町富新田1588-2 Tel0552-76-1266

新プレハブ住宅「メレーゼ」誕生フェア実施中

トヨタホーム山梨は、プレハブ住宅の新製品「メレーゼ」を発売しました。外壁には耐久性に優れた理想的な素材、砂岩調のセラミックウォールを採用。高級感あふれる室内建具も設置するなど、35～45歳の世代を対象に装備も充実させました。また、ユニット工法により鉄骨の柱と梁



寄棟タイプ

を一体化させ“強い構造”を創っています。さらに住まいをあらかじめ工場で造る工場生産化率を従来の80～85%に高め、品質も安定させコストダウンも実現。工期も40日と今までより5日程度縮めました。落ち着きのある「寄棟タイプ」と軽快な「切妻タイプ」の2種類から、お好みに応じて選ぶことができます。

只今トヨタホームの昭和住宅公園展示場(中巨摩郡昭和町西条140 Tel0552-75-8551)で、「メレーゼ誕生フェア」実施中です。

トヨタホーム山梨
本社：中巨摩郡昭和町西条1043 Tel0552-75-1234

過積載に関わる道路交通法が改正されました

今年5月に過積載に関する道路交通法が改正、施行されました。

過積載車両の運転者、使用者に対しての対策が強化されているのに加えて、荷主や荷受人に対しても新たに規定が設けられているのが、今回の改正法の大きな特徴です。過積載が行われる背景には、運転者、使用者だけでなく、積載物の輸送契約等に関係する荷主、荷受人等が関与している場合が少なくありません。そこで、荷主、荷受人等が車両の運転者に対して過積載を要求する、過積載になると知りながら制限の重量を超える積載物を売り渡したり引き渡したりする、などの行為を禁止する規



定の整備を行い、過積載を引き起こす要因の除去が図られています。

違反した場合は警察署長から違反行為を禁止する命令を受けますが、その命令にも違反した場合は、6ヶ月以下の懲役か10万円以下の罰金が科せられます。

甲府通運株式会社
本社：中巨摩郡田富町流通団地3328-1 Tel0552-73-0611

武田軍団第一級の武将山本勘助は
架空とか幻の軍師とかいわれ
歴史上は疑わしいといわれてきた
……さて実像は？

山本勘助の実像

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室を
経て 47 年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数

「湘南よみうり」という新聞をなにげなく目を通していたら、「信玄に兵法・戦術をもって仕えた山本勘助は、架空の人物ともいわれる。」とことわりながらも、勘助を信玄の女房役に見立て、それを現代に置きかえて、知事に仕える副知事、市町村長に仕える助役という形で、信玄の好き女房役である勘助に見立てて、特集しているのが特に面白かった。

ただ架空説と実在説の歴史のはざまにゆれ動く勘助の実在を示す信玄文書が、昭和44年釧路市の市川家から発見されたにもかかわらず、このように相変わらず世間では「架空といわれる」と前置きしなければならないほど、まだ実像が定着していないのは残念に思う。

それは一口にいて勘助は、近代・現代では捉えにくい人物だということである。誤解の第一は江戸時代はやった軍学で、勘助は信玄の軍師などと書き立てられたからであるが、彼は軍師でもなんでもなく、現代風にいえば一級建築士、戦術上の技術者と見たほうが解りやすい。とくに理論家で実践派の信玄が軍師などという架空名詞の講談調のいかかわし

い人物を雇い入れる筈もない。

その地位は足軽隊将であって、『甲陽軍鑑』にも軍師など一言も書いておらず、その任務は「山本勘助城取、或は敵をはます事」と見えている。つまり彼の特技は第一に城を築



山本勘助の肖像画

城することであった。武田家に採用になった条件も、次々に持ち上がる占領地の重要な場所に城を見立てたり、或は修築したりする仕事の間断なく持ち上がる。城作りというのはもともと防御を主体としたものであ

る。つまり敵陣の近くで、急速、堅固な防御専用の城を新築、或は改築しなければならないのであるから、豊富な体験を必要とする。

そうした中で勘助流の縄張りとは、防御の措置が入り組んで、複雑、判りにくく巧妙に出来ていると評判をとった。城作りの技術者としての心得の中に、基本設計として絵図・土図・木図という言葉がある。つまり地形を見立て絵図面をまず描き、つぎに粘土で城の形を造ってみる。それで納得がいったら今度は木をつかって小さな模型をつくり、ここで初めて普請奉行に手渡されるのである。

山本勘助はこうして武田家に採用された理由が、城作りの技術者として抱えられたのであるが、そのため当然占領地の各地の城に勘助の名前が残ることになった。たとえば諏訪高島城の場合も、勘助の縄張りとして「高白斎記」に記録されているし、高遠城などには勘助曲輪がある。東高遠の桂泉院の境内には勘助桜というのがあり、勘助はここから城を見立てたと言われている。

興味深いことに勘助は、多くの城作りに馬場民部信春とペアになって

修築したという記録が多いことである。『軍鑑』品第42を見ると、「当家の城取は勘助流なり、勘助馬場美濃守に能く相伝す」とあって、それを裏付けているが、これは信玄のお声がかかりで馬場美濃守が勘助に師事したからである。

いずれにしても城作りの技術というのは、槍一筋の武勇巧者だけでは成り立たない。いわゆる特殊技能であって、山越えの山伏修業をつんだ山本勘助にして、はじめてマスターできた勉強の道であった。勘助はこの技術を信玄の命で馬場美濃守に伝授し、以後馬場を助手のようにして城作りが行われたのである。馬場美濃守の年齢は勘助より15歳下、恰好の師と弟子であった。馬場が昔を述懐して「自分に城作りの^{つぎ}弁えが少しあるのは、山本勘助入道道鬼から学んだからだ……」と云っているのも師にぞっこん惚れ込んでいたからであろう。実際に馬場が勘助の死後手がけた城は駿河・三河方面に多く、田中城・江尻城などの手直しなど有名である。

信玄が駿河進攻後、清水に屋敷城を構えたとき、その縄張りを馬場に



信州高遠城の勘助曲輪 勘助曲輪は東西33間(59.73m)南北28間(50.68m)の広さがある半円形の小区画は甲州流井形の特徴がある

命じて「我方より攻ほすに、味方さのみむづかしくなきやうに、工夫仕候へと、馬場美濃守に仰せ付けられ候、美濃守委細かしこまりたと申候て、其ごとくいたす。山本勘助流城取の極意なり」と見えている。つまりわかりやすく説明すると、敵が小勢できたときは、攻め落とされな



高根町中蔵原にある山本勘助の墓(山本常男の屋敷内にある)「天徳院武山道鬼居士永録(抄)四歳五月十日」と彫られている

いよう工夫する。しかし多勢にてやむなく攻めとられてしまったときは、今度は味方が攻め落とすとき、手間がかからないよう工夫しておけというのである。そのことが山本勘助の城取の極意だといっているのである。

たとえば甲州流の城取の極意に丸馬出という言葉がある。これは虎口(小口とも)を守るために塁と堀を設けたもので、全体の姿が半円形をしているので、この呼称が生まれたのだが、堀の方は三日月堀といわれ、甲州流独特のものといわれている。このように勘助の実像をさぐるには、建築上の技術を相当に身につけたものでなければ理解しにくい面が強い。特に教条的机上学問では、法面とか敷面とか差渡などの技術用語さえわからず、ついには人物そのものを敬遠して幻の人などと逃げてしまっているのである。

名画に描かれた動物たち 1-①

山本育夫

やまもと いくお
詩人

ミュージアム・マガジン・DOME (ドーム) 編集長

ある日の午後、
僕はビール缶を・・・

ミレー、コロー、クールベからマネ、モネ、セザンヌ、ルノワール……。こんなふうに歌うように世界の芸術家の名前を書き連ねていくと、それらの芸術家たちが描いた人物や風景が、美しい色彩と連れだって頭の中に湧き上がってくる。そこに描かれた「主人公」たちの輝くような美しさ。愛くるしい表情、沈鬱な表情、燃えるような夕暮れ、そびえたつ山々……。さらに時代をさかのぼれば、王朝貴族の優雅な生活や聖書にまつわる物語の数々に出会う。それらを見れば、むせ返るような神々や貴族たちの姿が、飽きることなく描かれてきたことがわかる。キリストの苦悩の表情、おびただしい聖者たちの群像。古典時代の絵から印象派の絵へ目を移すと、確かにほっとする。印象派の絵画には軽快でしなやかで、のびのびとした個人の日常生活が描かれている。

そんなふうに、おびただしく描かれ続けてきた名画たちの前で、僕たちはさまざまな思いをめぐらすこと

ができる。名画たちはたくさんの情報を抱え込んだまま、長い歳月を越えて現在に至るまで、まだまだたくさんのメッセージを隠し持っているのだ。

例えば、猫。そう僕の大好きな猫は、これらおびただしい絵の中に果たしてどれだけ登場してきたのだろうか。ふと僕はそう考えた。そう思っただけで直してみると、あ、あそこにも。おや、ここにも。いるいる。芸術家たちが自作の片隅に描き残してくれたかわいい猫たちの数は、結構な数にのぼったのだ。

うれしい。はっきりいって、僕は世界の芸術家たちに心からそうつぶやいた。そして、美術の膨大なカタログの中の名画の片隅に潜んでいた、あまり知られることのなかった動物たちを一匹ずつ発見する度に、これまで感じていた芸術家のイメージや名画のイメージが、少しずつではあるが覆されていくような気持ちにとらわれはじめた。そう、それは、大芸術家、いや、いまでは大芸術家と祭り上げられてはいるが、その多くの芸術家たちは、生前はつましく、貧しく、狂おしい日々を送っていた

のだ、その彼らの心の琴線にふれる思いがしたのだった。そして、ほとんどあたり前のことなのだが、「あらゆる絵画は、すべて確かに画家によって描かれる限りそこには出現しないものなのだ」。だとすれば、画面のどんな片隅に描かれている「対象」にも、すべて主人公と同じだけの愛着と思いが込められているに違いない。いや、ともすれば、だからこそ、逆にその片隅の「対象」に画家の本当の思いの丈を表しているということだってあるのではないか。

夏に向かうある日の午後、僕は昼寝からさめて、クーラーから極上に冷えた缶ビールを取り出し、おしゅっと音たてて開けて、ゆっくりと飲みほした。それから、愛すべき動物たちを名画の中からひととき解き放してあげようと考えたのだった。

名画の中の動物

とすれば、やはりもちろん猫から始めたい。犬や鳥や羊や馬や牛は、正直なところかなりの数描かれている。だから、いずれそれらの動物の中で、特上にかわいらしい逸品を紹介しよ

うと思うのだが、それに比べて猫はなかなかいい物件？が見つからない。かわいそうな存在なのだ。加えて猫好きの僕だから、ここのところは依怙成見（驚いたことにこの字で、「えこひいき」と読むのだ）して、猫から始めることをお許し願いたい。

名画の中の猫、といえば、やはりまず第一等のかわいらしさを誇っているのは、「外人が描いた猫」ではなくて、我が日本国の芸術家・藤田嗣治の猫を出さないわけにはいかないだろう。藤田の描いた猫のかわいらしさといったら、誰もが思わず「かわいい」と口に出さずにいられなくなる代物だ。

初めて藤田の猫におめにかかったのは、もうずいぶん以前のことになる。学生時代のことだ。しかし、その頃の僕は実は犬好きだった。世界は犬のかわいらしさに満ちあふれて見えて、どこへ行っても犬の尻を追いかけて回っていた。だから、僕が藤田の猫に出会うのは、山梨県立美術館を退職しフリーの編集者として「ミュージアム・マガジン・DOME (ドームと読む。いや、どーも、どーもと必ずからかわれる)」の取材で東

京の目黒区美術館を訪れた時だ。「レオナール・フジタ 絵と言葉展」を開催していた。この展覧会はレオナール・フジタが1919年から1967年の間にパリで出版した挿画本53点と、1905年に日本の友人に出した絵ハガキ12点などの書簡類で構成された展覧会で、まあ、いってみれば藤田の私生活にスポットを当てた展覧会で、特に書簡の中で気持ちがひかれたのは、1949年に日本から単身渡米した63歳の藤田の、寂しい心境が伺われるところだった。藤田は後から来るはずの4番目の妻・君代さんの到着をいまかいまかと待ちわびている。ホテル・ブレスコットで「君代がいつくるのか考えています。今日は18日です」と書く藤田。「私は飛んでいます。私はとても軽い。私の君代がここに来ます、日本に心残りはない。手かせ鉄の首かせ」などという文面も見え。最後のところ、手かせ、首のかせ、とは、奇妙な言い方だが、実は当時藤田は日本の状態にほとんど嫌気がさして渡米したらしいこと。この手かせ、首のかせからの逃亡というシーンが、実は藤田自身の手で

ハガキに描かれてもいたのだ。

そんな藤田が好んで描いた猫。この展覧会には「猫の本」という、猫ばかり描いた藤田の本が出品されていたのだ。

展覧会の担当の矢内さんという女性の学芸員に、国立近代美術館にも藤田の大きな猫の油絵がありますよ、とささやかれて、後日猫たちがロンドを踊っているような愉快な絵と出会うことにもなった。

しかし、正直なところ確にかわいくはあったのだが、これらの藤田の猫はまだまだという感じだった。もっとかわいい藤田の猫に出会ったのは、今年の春。東京ブリヂストン美術館でのことだ。みなさん、どうぞ、まだ見ていなかったら一度ブリヂストン美術館にお出かけいただきたい。確かによけいな世話なのだが、だまされたと思って出かけてみたらいかがであろう（ただし、必ずしもいつも掛けられているとは限らないので、事前に一度美術館に確認してからお出かけすることをおすすめする）。

—以下次号につづく—

藤田嗣治
FUJITA Tsuguharu
1886 - 1968
《猫のいる静物》
Still Life with a Cat
油彩・カンヴァス
80.6 × 99.9cm / 1939 - 40
石橋財団 プリヂストン美術館





まるまる太らせたいモ虫君が決め手!

メキシコ生まれ?アメリカ育ち??のおふざけキャンディー!

Hey,dude!このジメジメした6月。憂鬱な気分をフツ飛ばそうと、好奇心旺盛な私(自称Dude)は街をハントしていた。「何か面白いことないかな〜」。

そこでフラッと入ったファンシーショップ。

ギョギョツ!

「何これ!」。弓なりになったイモ虫状の物体がアメの中で固まったまま売られてる…。

今や知る人ぞ知るこのキャンディー=

LOCO POP。トレンドの象徴女子校生の間で大人気。長さ4センチ、厚さ1センチ以上の大きなアメの中に、体長1.5~2.5センチの虫が窒息状態で埋まっている。LOCOとはスペイン語で常軌を逸した、気が狂ったの意。まさに常人には理解できないこの発想。アメリカ人がメキシコを訪れた際に思いつき、4、5年前から空港のお土産コーナーなどで発売されていたらしい。今もコンスタントな売れゆきだそう。

一方、日本でこのブームの火付け役となったのは、中南米の酒類を扱っている輸入業者。昨年の12月以来100万本を輸入し、爆発的なヒットとなるんだけど、初めは「メスカル・グサーノロホ」という虫入りのお酒の宣伝に過ぎなかったんだって。それが今ではホワイトデーや宴会シーズンなど、何かイベントがある度に引っ張りダコ。手作りバレンタインデーのお返しがこれ?まあ、いいけどね…。

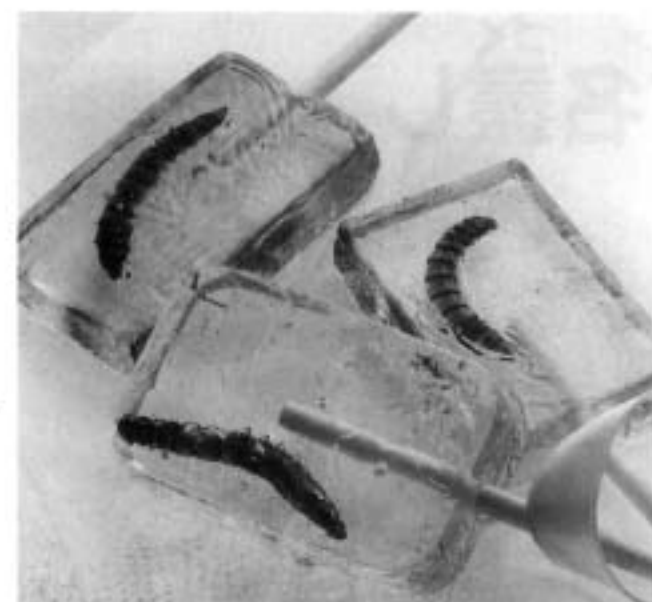
さて、中の虫君。その名もモリトル・チネブリオ(MOLITOR TENEBRIO)。このチネブリオ君は幸運を呼ぶと言われ、メキシコでは食用虫としてれっきとした料理メニューの一員。3カ月間りんご、にんじん、コーンなどを与えられ、でっぴり太ったチネブリオ君の体は100%植物性タンパク質。滋養強壮にすごく役立つみたい。テキーラと一緒に飲むのがまたオツのようで、Dudeなあなたにもピッタリ。是非、一度 Give it a try! それでは、次号もお楽しみに!。

え?アメの味?自分で買って食べてみて下さい。エッ!教えないと買わない?どうして私が……。わかりました。食べます(泣)。

恐る恐る手にしたのはグレープフルーツフレーバー。なるべくチネブリオ君と目が合わないよう書めていくと…出てきました、茶色い物体が。火で炒ってあるため口当たりはクリスピー、と思いきや弾力がある。味の方は?干しエビともアーモンドとも聞いているが…。一噛み毎に騒いでると、虫の表皮がまるでアーモンドの渋皮が剥けるように取れていく。でも味自体はグレープフルーツが強いので、虫の味と言われても何も感じなかったのが実状。でもなぜか、不思議とパワーが満ちてきた感じ!

さあ。蜂の子を食べる両親を横目に「信じられない」と半ペソをかいていた私が食べたんです。あなたも食べられないことはない!

【文:真壁仁美】



子供から大人まで楽しめるこのLOCO POPは、日本では一切製造していません。輸入の際に成田でのチェックをクリアし、安全面では厚生省のお墨付きです。

Book

私の古代史
記紀に見る甲斐酒折王朝

犬飼和雄 著

(法政大学教授、酒折在住)

甲府・酒折宮の境内には、連歌発祥の地であるという碑が建つ。連歌は互いに歌をつらねて一編をつくるといううたの形式。その由来が、古事記、日本書紀に記述されている。

倭建命が東国遠征のときに甲斐の酒折宮に立ち寄り、その御火焼の老人に「新

治 筑波を過ぎて 幾夜か寝つる」と問うと、老人が「かがなべて 夜には九夜 日には十日を」とこたえ、その答が正しかったので、倭建命はこの老人を東国の支配者に任命した、と古事記、日本書紀は伝えている。

さて、著者は、酒折宮がたんにそれだけの理由で古事記、日本書紀に取り上げられたわけではあるまいと考える。文化の中心地から離れた土地に、連歌発祥の地を求めるわけがない。また、御火焼の老人というのが、たんなる老人という後世の理解もふに落ちないとする。

古事記、日本書紀の記述には謎が多いが、しかしそこに、大和朝廷が無視できな

かった甲斐の古代史、また古事記、日本書紀の作成者たちが記さないわけにはいかなかった甲斐の古代史があるはずだ、との視点をもつ。

内外の歴史との比較、酒折宮周辺をつぶさに歩いての実証に立ち、著者は、酒折を中心に甲斐盆地を支配していた古代王朝があったのではないかと推察する。

(レターボックス社刊 03 (3366) 2177 ¥4,120) (川)



会いたい人から 会いたい人へ
 知りたいことから 知りたいことへ
 リレーでつなぐエッセイ

甲府の町名^{つく}盡し



植松光宏

うえまつみつひろ
 甲府市立図書館長 奈麻余美文庫主宰
 著書「本のある風景」ほか

甲府の街中に美化を訴える標柱が立てられ、もう久しい。かいじ国体に合わせ、美しいまちづくりをしようとして市が進めていた市民運動の一つである。

標柱には「伝統ある町を愛しみながら美しい町にしよう」という標語が書いてある。市の環境部が建てたものだが、全国どこへ行っても、この種の標柱類はあるものだが、甲府の標柱は他都市の物とは、一味ちがう。良く見ると、標柱の側面に、その標柱が立てられている場所の町名の由来が書いてあるからである。

例えば甲府商工会議所前に建てられた標柱には、相生町の由来が書かれている。

「昔は甲府城の外堀がこの通りの北側にあり、それで町並みは南側の片一方しかなかったのが片場町といわれた。明治九年に街路が広がり道の両側に町が生まれたので相生町となった」といった具合である。

ひところ小学生の社会科の宿題でも出されたが、この標柱の由緒書きをノートに写しとっている豆郷土史家の姿を見かけたものだ。

はっきりしないが市街地に百本近

く建てられているということだ。町名の研究に役だつとは一寸大袈裟だが、古い町並を誇る甲府だから出来る一石二鳥の標柱である。

さて、最近、全国各地で旧町名碑や標識の設置事業が盛んに行なわれている。仙台市や金沢市あたりで先鞭をつけたものだが、甲府もこの設置については先進地であった。忘れられていく一方の昔の地名を目に見える形で残そうという試みだ。

昭和三十七年「住居表示に関する法律」が施行、従来複雑だった地番の整理と町名町域の大変更が全国的に行なわれた。そして由緒ある町名が消えたのである。

甲府市の場合もその例にもれない。武田三代六十年間にわたり栄えた上府中の内、職人町であった大工町、畳町、新紺屋町、細工町、元緑町、元連雀町、元穴山町は、変哲もない武田二丁目に、御崎町、元三日町、白木町、塩部町、袋町も美咲一丁目となった。

甲府の城下町として発展した山田町、八日町、横近習、魚町、愛宕町、境町、堅近習町、桜町、柳町は中央四丁目にと変わってしまった。

金手町や袋町はその土地の形状によって生まれ、八日町や三日町は市のたつたいわれであり、工町や桶屋町、鍛冶町は職人集団の町であり、栄枯盛衰はあったものの由緒ある町名を伝統と共に引継いできただけに残念である。

天保十一年三月吉日、「甲府の町名盡し」と題した町名歌がある。当時の町名をあまざず載せていることはおもしろい。今まであまり目にふれない文献だけに全文を掲載紹介したい。あなたは幾く判るでしょうか。

「なまよみの甲斐の府中乃春風に靡く柳の緑町、野邊の草薺も青沼や、三日、八日と飛かそへて温泉に魚町や、いつしか夏乃郭公、橋田乃香も森下町、夏を世にふけ山田町、鼓く水鷄のま起乃伏穴山の影志らみ、歸る近習や御納戸衆、秋は田圃乃雁がねや、孔雀、連雀鳳凰の桐を磨いて工町、細工も数た桶、鍛冶屋、染る紺屋乃相川やはかる増山、袋町、左官大工の金乃手や、か爾乃御崎の雪乃中、雲井に高き愛宕山 時の鐘鳴る横澤や、よこ堅町の麻乃糸、メつゆるめず畳町、一條、二條、城屋町、佐渡の金山代官の使ふ手子町、二十人、小が爾堀井に深町や、田町百石、五百並ぶ御先手廣小路、廣庭に敷ふ御町、國乃塔のす衝までも起幸片羽乃政事、民豊かと守ります。稻荷殿一蓮寺、續く御寺は光澤寺、長輝寺前、御佛の衆生を教ふ聖願寺前」

「天保十一年三月の町名歌より」

陸上運送業のはじまりは飛脚屋 近世日本経済のサポーターとして活躍

林 陽一郎

はやし よういちろう
 山梨県教育委員会・歴史編纂文化財担当

江戸時代、東海道をはじめ各地の交通設備が一応整っていると、旅人は駕籠や馬を利用するにはその宿場から次の宿場までと順次利用して目的地まで行くこととなる。荷物の運搬も同様に、例えば甲府から江戸へ下る（京都へ向かうのが上り、したがって甲府から江戸へは下るとなる）には、甲府で頼んだ馬は石和までとなり、新たに石和の馬で次の栗原宿（山梨市）へとリレー式で江戸へ向かう。料金もその度ごとに支払うのである。

武士や公用の村役人や神社寺院のうちで許可をもらった人々は、その人足や馬の利用料金も公定料金（これを御定賃金）を支払えばよかったが、一般の人たちは相対賃金（あいだいしんせん）といっておおよそ公定料金の倍額を支払うこととなっていた。したがって商人たちの書状や荷物を送るにも武士たちに比べて倍額の負担をしなければならず、またそれらを運ぶ人は自分で雇わなければならなかった。

ところが元和元年（1615）以来、江戸から大阪城に単身赴任していた武士である大阪定番士（じやうばんし）たちが家来を使って江戸の家族と手紙や荷物のやり



東海道名所図会

とりをしているのを知った大阪商人の中に、幾らかの金を出してこの定番士の名義を借りて大阪江戸間で書状や荷物を運ぶ者が出来た。そうすることによって城士の名前を借りて安い賃金で人足や馬が利用できることとなる。すると段々に大阪や江戸の商人たちもこの方法を利用する者が増加し始め、寛文3年（1663）になると正式に届け出て運送を業とする飛脚問屋が成立する。

これらは大阪、京都、江戸の三都市間で営業を行ったので三都飛脚、また月のうち五のつく日、五日、十五日、二十五日のように月3回江戸に飛脚便を出すところから三度飛脚とも呼ばれた。公認の定飛脚となった

ので途中の人足や馬の料金は公定料金を支払えばよかったのである。書状や小荷物は飛脚屋の人足が「挟み箱（はさみばこ）」という箱に入れて「にない棒」で肩にかついで走って運んだが、定期的な運送には宰領と呼ばれる飛脚屋の店の人が各宿場の人足や馬を使った。指絵は寛政9年（1797）に出版された「東海道名所図会」に描かれた飛脚屋の宰領である。馬子と馬は宿場に属し、宰領は賃金を払って利用する。20貫（約80kg）の荷物に一人が乗るのを「乗掛」と呼ぶが、馬の両側につけているのは飛脚屋の荷物で、この中に客から頼まれた手紙や小荷物が入っている。宰領のかぶっている笠は「三度笠」、三度飛脚がかぶったところからこの名がある。一般の旅人や股旅の者もかぶっていた。

荷物の先に「定飛脚」と書かれ差し込まれている木札は「絵符」と呼ばれるもので公定料金が利用出来る身元を示すもの、つい最近まで小荷物を送ってもらう際に荷物につけた「エフ」はここからきている。英語ではなく立派な日本語である。日本経済のサポーターとしての飛脚屋は現代の人達の身近にも生きている。

青い空のもと 富士山の雄大さを映し出す河口湖
その周辺には 車と共に
自然の中で暮らしを楽しむ人々の姿がある

ランバー・ジャック

あちこちに小さな花の咲く庭が、ヨーロッパの田舎の家を連想させるランバー・ジャック。今年で経営13年目というベテランのオーナー板爪夫妻が、2匹の猫と一緒に温かい笑顔で迎えてくれる。

中に入ってまず驚かされるのが、大きな水槽で泳ぐたくさんの熱帯魚。見たこともないような色鮮やかな魚達がラウンジをぐるりと取り囲み、訪れた人を飽きさせない。また、奥さんが腕によりをかけてこしらえた



フルコースディナーも、ここの自慢。デザートまですべて手作りで、特にヨーグルトムースは女性に好評。そして夕食の後は、定期的に開かれるカントリーミュージックのコンサートで、楽しいひとときを過ごすことができる。何よりもくつろぎを

大切にするというオーナーの言葉通り、ここにはゆったりとした優しい時間が流れている。

〒401-03 南都留郡河口湖町大石2123-86
TEL0555-76-6858

ミッキー

背の高い木々にすっぽりと包み込まれているかのような、白い壁の建物がミッキー。周りの緑にまぶしいくらいに映えているその姿が、とても印象的。

訪れた人を最初に歓迎してくれる手作りの木製ミッキーマウスを初め、部屋の中はミッキーマウスのグッズでいっぱい。それもそのはず、オーナーの木下夫妻は大のミッキーマウスファン。ペンション名の由来でもあるベットのチワワにも、ミッキーと名付けてしまったくらい。



どんな人も同じようにリラックスできるように心がけてくれているので、初めて訪れた人でも居心地よく過ごせるのが魅力。明るいオーナーの人柄にひかれて、関西方面からもやって来る人がたくさんいるとか。天気の良い日は、松林に囲まれた白いテラスに出てみることをおすすめしたい。さわやかな風の中、目の前に広がる緑と心のこもった料理を満喫できる。

〒401-03 南都留郡河口湖町大石2153-20
TEL0555-76-6937



全部で27軒のペンションが木立の中に並ぶ、プチペンション村。ここにあるのは豊かな緑に澄んだ空気と、ぜいたくなほどの自然。河口湖湖畔とはまた少し違う、静かでのんびりとした雰囲気が村全体を包んでいる。



クレッシェンド

駐車場から続くちょっと急な坂道を上ると、クレッシェンドの姿が現れる。レンガ造りのおしゃれな外観は、若い女性やカップルに人気。中は広々とした造りになっていて、手足を伸ばしてゆったりとくつろげる雰囲気。

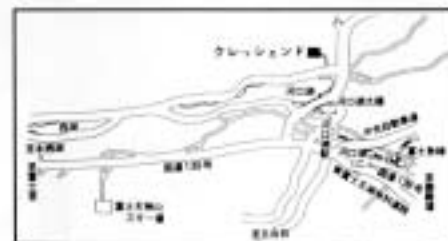
ここの名物は、大きな窓が付いたジャグジー風呂。明るい日差しを浴びながら、心身共にリフレッシュ。水着を貸してくれるので女性も気軽に楽しめる。建物の周りにはハーブ畑が広がり、料理に使うのは、とれたてのもの。夕食のコース料理はすべてオーナーの奥さんの手作り。



特にソースにはこだわっていて、作るのにたっぷり3-4日はかけるとのこと。またペンション名からも分かるように、オーナーの大石さんは音楽好き。夕食後はラウンジに置かれ

たギターとピアノでちょっとしたコンサートが始まる。飛び入り歓迎の自由なコンサートなので、知らない人同士で盛り上がることも。旅先ならではの楽しい思い出をつくってみよう。

〒401-03 南都留郡河口湖町河口2115
TEL0555-76-8011



アップツーデイト

林の中の白い洋館といったたたずまいのアップツーデイト。窓を開けると、建物を取り囲む木立の間からさわやかな風が吹いてくる。河口湖ICからわずか車で2分とは信じられないほどの自然に恵まれた静かな環境。富士急ハイランドに近いこともあって、各地からお客さんがやって来るという。

中は広々としていて、ペンションというよりはプチホテルといった感

じ。吹き抜けの解放感あふれるラウンジは心地良く、つい長居をしてし



まいそう。お待ちかねのディナータイムには、オーナーの奥さんが腕をふるう。料理を作る時は、すべての人においしく味わってもらえるようなメニューを心がけていると言う。アフターディナーのお楽しみは100インチのハイビジョンでみる名作ビデオ。その本数は相当なもので、ちょっとしたシアターが開けそう。オープンの時から変わらない低価格で全室バス・トイレ付きというのも自慢だ。
〒403 富士吉田市松山1607
TEL0555-23-4126



[文：山川エミ]

<トヨタホーム山梨のページ>

新しい家に大満足 いつもにぎやか7人家族は まるで“サザエさん一家”

田中省三さんご一家（御坂町）

御坂町成田に住む古屋さんと田中さんは2世帯同居。古屋さんの娘さんが田中さんと結婚し、昨年の暮れに建てたばかりの家で、古屋さん夫婦、そしてそのお母さんと一緒に暮らしている。田中さんの子供を含めて7人の大家族は、いつもにぎやか。まだ小さな2人の子供を中心に、新しい住まいには明るい笑い声が絶えない。

そんな2世帯家族が同居のための住まいとして選んだのは、トヨタホームの「フォーレ」。田中さんがとりわけ自慢に思っているのが、どっしりと落ち着いた雰囲気の外観。正面からはもちろん、裏から見ても大変立派な所が気に入っているという。また、帰るのが楽しみになるほどの



おばあちゃんを囲んで明るい笑顔がいっぱい

広く明るい玄関もみんなのお気に入り。そして1階のリビングは、家族が夕食の時に集う大切な憩いの場所。全員集合しても狭さをまったく感じさせないゆったりとした造りで、夕食後の団らんのひとときも、ここで過ごすことが多い。「この家に決めるまでさほど迷いはなかった」と古屋さん。決めてからもトヨタホーム側との細かい打ち合わせを繰り返し、順調に家づくりは進んでいった。ところが完成間近になって思わぬハプニングが。季節はず

れの強い台風が来てしまったのだ。降り続く雨と激しい風。鉄骨の丈夫な構造とはいえ、未完成の新居が心配で眠れない日々を過ごしたという。

やっと台風は去ったが、建設中の家は心配をよそに、びくともしない頑丈さ。まさに“雨にも風にも負けない住まい”が、完成前に証明されたことになる。

「何よりも、2世帯がずっと気持ちよく暮らせる家にしたかった」と話す田中さん。この家を選んだのは正解だったようだ。 [文：山川エミ]



<トヨタホーム山梨のページ>

総合力でベストコンサルティング まちがいのない家づくりは トヨタホームから始まります

家づくりの前にプロに相談を

いよいよ新しい家づくり。そんな時頭に浮かぶのは、雑誌や展示場などで見た素敵な家のあんな外観、こんな間取り…。いろんな夢や希望がふくらんでいく。ただ、本当に快適に暮らせる家を完成させるには、住まいのプロの目を通して家づくりを考えてみる必要がある。家建てることが決まったら、まずトヨタホームにご相談されたい。スタートからアフターサービスまで、総合力をフルに発揮して家づくりがはじまっていく。

やり直せない家づくりだから、正確な分析を最初の段階で十分に行うことが不可欠。普通なら気がつきにくいところまで細かくチェックして、万全のスタート体制が整えられていく。



敷地調査と環境診断から

ご相談をいただいて最初に行うのが「敷地調査・環境診断」。敷地調査のポイントは2つ。1つは追加工事による費用の発生やスケジュールの遅れなどの、工事前や工事中のトラブルを未然に防ぐこと。2つ目は、地盤沈下、基礎のクラック、水はけの悪さなどの、建築後のトラブルをなくすこと。

さらに環境診断では、より快適な生活のための通風・採光性などを考慮して、敷地や周囲の環境をていねいにチェックしていく。

家づくりの夢を形に

こうして調べた結果をもとに、資金計画や家族構成を考えたイメージプランが提案される。家族のライフスタイルに合わせ、10年先、20年先への気配りも忘れない。プランが決定すれば、その他の設備やインテリアにかかるお金も見えてくるので一安心だ。

見積りは、オプション等も含んだ本体工事費、庭やアプローチなどの外構にかかる別途工事費などをすべて

を明瞭に提示される。工事途中でふくれ上がるという心配はない。さらに税金や仮住まい費用も含んだ総見積りがプランのご提案と同時に提示されるので、確実な資金計画が立てられる。



アフターサービスも万全

細かい打ち合わせが終われば、いよいよ契約。関係者立ち会いのもと、納得していただいた上で契約書が取りかわされる。ご近所へのあいさつが終わったら、基礎工事のスタートです。トヨタホームで採用しているユニット工法は、住まいの80%以上工場生産。現場での施工期間が短いため、すぐに新居へ引っ越せる。入居後も無料点検でトラブルがないかをチェック。快適な暮らしの頼もしい応援システムだ。

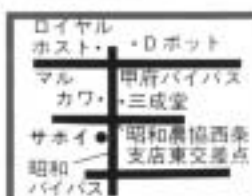
[文：山川エミ]

おしゃれ

サボイ



営業時間 10:30~20:00
定休日 年中無休
所在地 中巨摩郡昭和町西条4308
Tel 0552-75-0108



夏と相性ぴったりのナチュラルファッション

昭和バイパス沿いの輸入雑貨とナチュラルファッションのお店。店内に所せましと並んだインド、タイ、フィリピン、中国、インドネシアなどの東南アジアファッションが、ちょっと不思議な雰囲気をかもしだしています。自然の素材を大切に仕上げた衣類は、肌ざわりが優しく、着心地は抜群との評判。これからの季節に活躍しそうなブラウスやスカート、パンツなどがたくさん揃っています。

衣類だけでなく、おしゃれ小物も充実。革のネックレス、シルバーのアクセサリ、イヤリングやネックレスから、バッグや靴、帽子まで、ここでしか手に入らない個性的なデザインの物がいっぱい。変わった形の雑貨やプランターなども、見ていて飽きません。親しい人へのプレゼントによく利用されるそうです。

全体的に低プライスなので、気に入った物を色違いで買っていく人も多いとか。若い人からミセスまで幅広い層が満足できる、うれしいお店です。

たべる

ブラッセリー・エラン



営業時間 11:30~14:00 (昼)
17:30~22:00 (夜)
定休日 日曜日
所在地 甲府市北口1-2-14
北口プラザビルB1
Tel 0552-53-0202



大人のためのカフェレストラン

甲府の北口にフランス田舎料理と手造りソーセージのお店があるのをご存知ですか。名前は「ブラッセリー・エラン」。ブラッセリーとはカフェレストランのこと。ここでは堅苦しい作法は一切いりません。大いに食べて、飲んで、語りあう。そんな楽しい雰囲気が気軽に味わえる場所です。

一番のおすすめは、やはり自家製の手造りフレッシュ・ソーセージです。厳選した新鮮な豚肉100%と香辛料で、添加物を一切使わずに造りあげたという、まさにこだわりのおいしさ。種類も豊富です。ソーセージ以外の新しいメニューも加わり、一層リーズナブルに食事が楽しめるようになりました。

お得なセットメニューをご紹介しますと、ランチタイムのデザート付きサービスランチ(2,000円など)、ディナータイムのコース(5,000円-)など。ミッドナイトタイムのア・ラ・カルトは全30品。冷たいビールにぴったりです。

PHOTO EYE

浅川 毅

カメラマン



四季のスケッチ

くらしのなかの感動さがし

撮影場所/緑が丘公園にて
天候/晴れ
撮影データ/ニコンF3
ニッコールズーム F4.5
80mm/m~200mm/m
1/125, F11
フィルム/ネオパンSS

キャッキャッとあどけない声。風に乗ってどこからともなく聞こえてくる。くすぐりっこや追いかっこ、ちょっとした段から飛び降りたり。子どもたちは感じたことをそのまま体で表現する。元気で機嫌がよい公園遊び。遊びがまさに生活。リズムカルに、いきいきと。まるで音楽が聞こえているかのように踊っている。

“バチリ”……邪魔したかな。

感情を素直に体で表現することを忘れてしまった人達へ。そして、表現すべき感情なんてものが無くなりつつあるキンバクした大人達へ。公園で見つけたワンショット。言葉で表現できなくても、りっぱに自己主張してる。この童心からの刺激を受けなくなったら悲しい。あなたは何をイメージすることができたかな？



某月某日

或ること 企業と社会との対話について考えた

以心伝心では大衆を動かさない

一対一の日本化への回帰それとも国際化

時代性や先端性をも内在させることが

イメージを良くする 簡単なことが難しい



社会という巨大な秩序界、機構にあって、法人である企業も含めて、人は生まれながらにしてその中に取り込まれ、事実上その中で暮らし生き続けなくてはならない。が、しかし、となく企業は外部の世界と隔絶した世界、あるいはむやみに差異化を指向する傾向がある。そこに企業の常識と社会の常識のズレが生じる。2000年以上も前、アリストテレスが言った「人は経済的存在でなく、社会的存在である」という意味合いは今でも通用している。

であるなら、経営的な意義としてこの差を埋める努力、対話が必要となる。これこそが今、社会から求められている企業像に迫るものだ。そして、存在感を得るためには、生活感覚になじみ、生活の姿を見せることが共感を呼び起こす。社会の一員と同時に生活者としての位置付け、コミュニケーションが、企業文化、風土的なものを生み出し、地域との共生が図られることとなる。

では、人が人として繋がりをつけるプロセスにおいて重要な要素とは何だろうか。顔の無い人、色の無い人と長く付き合うだろうか。人間味

豊かな人、魅力ある人と逢うと印象的である。言い換えれば、情報に敏感で、教養が深く、幅広い趣味があり、ユーモアに富んでいて、話題が多ければ会話も弾む。他面、スポーツマンは良くもてる。肉体的だけでなくフェアで明るい、精神的な要素がうけるのだろう。

企業に置き換えてみよう。人、モノ、情報で創り出される大衆の思い込み、イメージの大切さではないか。勿論、社員行動も大きな要因である。このイメージという言葉は“良いまたは悪い”と日常的に使っているが、客観性があるのかというと“否”と言わざるを得ない。心の中に抱く感覚的なもの。つまり理性的な思考でもなく妥当性のない主観的要素である。経験や生活環境、年代でも異なる。しかし、大衆が動けばそれが真実の世界となり、これほど恐ろしいものはない。

以前は「のれん」とか「老舗」、「大店」といった企業規模を表す肩書的なものが多かったように思うが、情報化の流れ、成熟社会の中で随分と様変わりしたようだ。解らないことが恐怖感と呼び、イメージが悪いと

なる。企業活動においても支障を来す。企業の維持、存続、発展においてはその対応策は極めて重要で、中心課題となろう。

そこに社会との対話、そのネットワークとしての広報誌、アイテムとしての情報の意義が生じる。直近の利益には結びつかないが、避けては通れない。発展過程において拡大、多様化している内在する情報の発信を心掛け、イメージの拡散を図る必要がある。そのためには、従来の営業、宣伝からの独立を重視する方向性が担保されなくてはならない。近代的企業なら沈黙は美德ではなく、垣根を造らず顔を、色を見せることだ。また曲学阿世の必要もない。

情報とは不思議なもので、貨幣に良く似ている。閉鎖された中では効率的に物事を処理するには役立つが、枠組みを変化させるまでは至らない。提示し、意見をもらい、また考えを示す—この循環プロセスを確立すれば、価値が発見される。蓄えるだけでなく動かすことによって、新たな理解、解釈、やり方が生まれる。それが、枠組みを動かし、関係を切り開く。 [文：新海 毅]